

事業名：自然環境保全経費

環境課 主査（自然環境）

政策	01 環境と調和する都市の構築							
施策	02 人と地球にやさしい環境の創出							
基本事業	02 安全な地域環境の保全							
開始年度	—	終了年度	—	実施計画 事業認定	非対象	会計区分	一般会計	補助金

事務事業の目的と成果	
対象（誰、何に対して事業を行うのか）	
傷病動物	
手段（事務事業の内容、やり方）	
市民が傷病鳥獣を保護した時に、指定動物病院に収容し、治療を施す際に必要な治療用資材の一部を提供する。	
意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）	
傷病鳥獣を自然回帰させる。	

指標・事業費の推移						
区分		単位	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度当初
対象指標1	収容した鳥獣数	羽・匹	5	8	14	10
対象指標2						
活動指標1	指定病院数	病院	4	4	4	—
活動指標2						
成果指標1	自然回帰した数	羽・匹	3	4	12	10
成果指標2						
事業費(A)		千円	21	32	22	24
正職員人件費(B)		千円	803	802	781	782
総事業費(A+B)		千円	824	834	803	806

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
25年度	指定動物病院に対する治療用資材の一部提供	治療に要する消耗品費の一部負担 23千円

事業を取り巻く環境変化
事業開始背景
事業を取り巻く環境変化

平成25年度の実績による担当課の評価（平成26年度7月時点）	
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？	
妥当である 妥当性が低い	理由 根拠
	傷病野生鳥獣の保護・治療は、指定病院等に対応することであるが、初期対応は市民と行政が連携して行なわなければならない。
(2) 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？	
貢献度大きい 貢献度ふつう 貢献度小さい 基礎的事務事業	理由 根拠
	保護・治療は野生鳥獣と共生する上で欠かせない。
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？	
上がっている どちらかといえば上がっている 上がらない	理由 根拠
	広報等により野生鳥獣との接し方等についてPRを行っている。
(4) 成果が向上する余地（可能性）がありますか？その理由は何ですか？	
成果向上余地 大 成果向上余地 中 成果向上余地 小・なし	理由 根拠
	継続して広報等で周知することにより、初期対応の増加が期待できる。
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算+所要時間）を削減する方法はありますか？	
ある なし	理由 根拠
	必要最低限のコストで実施している。